

平成28年度公立大学法人福知山公立大学業務実績報告書に係る評価結果一覧表

番号	年度計画	法人 自己評価	評価委員会委員評価		備考
			評価結果	評価のポイント、委員会確認事項 (評価できる項目、課題となる項目)	
第4 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置					
1 教育の質の向上に関する目標を達成するための措置					
1	現行カリキュラムを見直すとともに、 教育成果の測定方法を検討する。	3	3		
2	大学の基本理念である地域協働の一環 として、地域の自治体や企業などから 講師を招き、特別講義や講演を実施す る。	3	3		
3	幅広い視野、豊かな人間性、生きてい くための総合力(人間力)を涵養するた め、ベーシック(教養科目群)及び実 践教育科目を置く。	4	4		
4	地域における実践力を涵養するた めに、「福知山公立大学開学記念連続講 演会」を開催する(計7回)。	4	3	特色ある取り組みをされていたとしても、「量(回数)」や「質」を確認できな いと基本的には評価することが難しい。評点4以上なら尚更である。年度 計画では7回開催を計画されているが、「計画の実施状況」欄に実施回数 に係る明確な記述がない。質の評価の観点でも、具体的な取り組みの記 述がない。 また、福知山公立大学開学記念連続講演会を実施したことが教育の質 の向上にどのようなつながったのかを読み取ることができない。 したがって、3を超える評価には無理があり、評価3が相当と判断する。	
5	就業体験を通じて社会を知るためのイ ンターンシップを実施する。	3	3		
6	地域協働型の実践教育を目的とした フィールド学修を実施する。	4	3	「実践・実習による学びの徹底」を実施するためには、中途半端ではなく 一貫している必要がある。 専門教育と実践教育により学生の課題解決能力を養成するという観点で 言えば、フィールド学修の延べ回数よりも学生1人1人が経験したフィー ルド学修の平均回数と平均延べ時間数が重要になる。 しかし、フィールド学修の平均回数と平均延べ時間数、あるいは質的な 評価に繋がる記述がなく、また、北部各市町でのフィールド学修の実施 は評価できるが、学修アウトカムはどうだったのかの記述に乏しい。 したがって、3を超える評価には無理があり、評価3が相当と判断する。	
7	ワークショップ等のグループ学修を授 業で積極的に取り入れる。	3	3		
8	アクティブ・ラーニングを推進するた めのファカルティ・ディベロップメン ト(FD)を実施する。	3	3	多くのシラバスで、学生への情報提供が求められる項目について、詳細 な記載ができていない。特に授業外学修を促す、予習・復習や参考図書へ の記載ができていないものが多い。	
9	予習・復習の習慣づけを継続する。	3	3	多くのシラバスで、学生への情報提供が求められる項目について、詳細 な記載ができていない。特に授業外学修を促す、予習・復習や参考図書へ の記載ができていないものが多い。	
10	ディプロマ・ポリシーを明確に定め る。	4	3	年度計画には“明確に定める”と記述されているが、評価の判断理由に あたる「計画の実施状況」欄には、定められたディプロマ・ポリシーに関わ る特段の記述がなく、明確に定めたとあるだけである。 したがって、3を超える評価には無理があり、評価3が相当と判断する。	
11	シラバスに明示した各科目の概要及び 到達目標、成績評価の方法と基準に 沿った成績評価を行う。	3	3		
12	GPA(成績評価係数)による学業評価を 学生指導に役立てる。	4	3	年度計画には“学業評価を学生指導に役立てる”と記述されているが、 評価の判断理由にあたる「計画の実施状況」欄には、学生指導に役立て た事実に関わる特段の記述がない。 したがって、3を超える評価には無理があり、評価3が相当と判断する。	
13	ディプロマ・ポリシーに基づき、明確なカリ キュラム・ポリシーを策定する。	4	3	評価の判断理由にあたる「計画の実施状況」欄の記述からは、年度計画 下線部を実行できたことが確認できる。しかし、取り組みに関わる定量的 ・定性的な特段の記述がない。 したがって、3を超える評価には無理があり、評価3が相当と判断する。	
14	カリキュラム・ポリシーに基づき、現 行カリキュラムの内容や科目の見直し を行い、専門的かつ体系的なカリキュ ラムを構築する。	4	3	中期目標どおりに進めたに過ぎない。また、評価の判断理由にあたる 「計画の実施状況」欄の記述からは、年度計画下線部を実行できたこと が確認できる。しかし、取り組みに関わる量的・質的な特段の記述がな い。 したがって、3を超える評価には無理があり、評価3が相当と判断する。	
15	ファカルティ・ディベロップメント (FD)委員会を定期に開催する(月2 回程度)。	3	3		
16	ファカルティ・ディベロップメント (FD)に関する研修会、勉強会を実施 する。	3	3	数値目標が必要ではないか。	
17	授業アンケートを学期ごとに実施し、 授業内容・方法等の改善及び向上に活 用する。	3	3	授業の内容や方法に関する受講者のアンケートを活かすために、公表し たのは有効である。	

番号	年度計画	法人 自己評価	評価委員会委員評価		備考
			評価結果	評価のポイント、委員会確認事項 (評価できる項目、課題となる項目)	
18	教職員による授業参観を試行する。	3	3	評価の高い授業を選び授業参観を行ったのは有効である。	
19	自己点検・評価を実施し、その結果を教育研究水準の向上や活性化に繋げる。	3	3		
20	本学の実情に即した内部質保証システムを構築し、PDCAサイクルを円滑に実施する。	3	3		
21	ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえて明確なアドミッション・ポリシーを定め、大学案内や学生募集要項、ホームページ等を活用して公表及び周知を行う。	4	3	評価の判断理由にあたる「計画の実施状況」欄の記述からは、年度計画第1下線部及び第2下線部ともに実行できたことが確認できる。しかし、取り組みに関わる定量的・定性的な特段の記述がない。したがって、3を超える評価には無理があり、評価3が相当と判断する。	
22	地域に根ざした公立大学として、地域枠を含む新たな入学者選抜方法を策定し、実施する。	3	3		
23	大学入学希望者学力評価テスト及び高等学校基礎学力テスト（いずれも仮称）の動向を踏まえた対応を検討する。	3	3		
24	北近畿地域を主としかつ全国の高校・予備校等を視野に入れた大学PR、大学概要及び学生募集情報の提供、各種受験媒体等の効果的活用、オープンキャンパス等を含めた広報活動を積極的に実施する。	3	3	少ない教職員が協力して、入試説明会や高校訪問等の学生募集活動を行った結果として、全国から多数の志願者を集めたことは高く評価できる。	
25	受験生、保護者、高校教員等への丁寧な説明を継続的に実施する。	3	3	少ない教職員が協力して、入試説明会や高校訪問等の学生募集活動を行った結果として、全国から多数の志願者を集めたことは高く評価できる。	
26	自己点検・評価を実施する。また、教育研究審議会及び経営審議会将来構想を検討する。	3	3		
27	学生支援にかかる専門委員会を設置する。	3	3		
28	担任制を導入する。	3	3		
29	臨床心理士によるカウンセリングを実施する(月2回程度)。	3	3		
30	メニュー改善などについて、食堂との調整・協議を行う。	3	3		
31	就職活動支援にかかる専門委員会を設置する。	3	3		
32	ポートフォリオシステムを学生の就職支援に役立てる。	3	3		
33	専任の担当者による資格取得及び就職活動支援を実施する。	3	3		
34	学生ニーズをもとに、公務員対策講座等の課外講座を設置する。	3	3		
35	行政職等に就いた本学卒業者による就職講話を実施する。	3	3		
36	国際交流の推進にかかる委員会を設置する。	3	3		
	評定平均値	3.2	3.0		
	評価5	0	0		
	評価4	8	1		
	評価3	28	35		
	評価2	0	0		
	評価1	0	0		
第4 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置					
2 研究の質の向上に関する目標を達成するための措置					
37	地域経営研究に関連する学会・研究会を開催し、研究者の招聘について検討する。	3	3		
38	持続可能な社会の創出に関連する研究及び情報分析を行うとともに、他の機関等との共同研究を推進する。	3	3		
39	統計資料をはじめ北近畿地域の様々な情報の収集、整備に取り組む。	3	3	紙媒体資料の収集だけではなく、データベースの構築を検討いただきたい。	
40	北近畿地域をはじめとする周辺地域の団体と連携するため、北近畿地域連携センターを設置する。	3	3		
41	外部資金（科学研究費補助金や戦略的創造研究推進事業等）の獲得に関する取り組みを推進する。	3	3	数値目標が必要ではないか。	

番号	年度計画	法人 自己評価	評価委員会委員評価		備考
			評価結果	評価のポイント、委員会確認事項 (評価できる項目、課題となる項目)	
42	福知山市等から委託事業・共同事業の獲得を推進する。	3	3		
43	学内研究費を均等に配分したうえで重点的な配分も行う。	3	3		
44	研究に関する規程（研究費不正使用防止、研究不正行為防止、研究倫理）を整備する。	3	3	研究倫理に関わるオンラインテストの受講を進めるべきではないか。	
評定平均値		3.0	3.0		
評価5		0	0		
評価4		0	0		
評価3		8	8		
評価2		0	0		
評価1		0	0		
第4 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置					
3 地域協働(地域貢献)の質の向上に関する目標を達成するための措置					
45	多世代並びに社会人向けの公開講座を開講する(15回程度)。	4	4		
46	地域社会による大学施設の利用を図る。	3	3		
47	地域への講師派遣のほか、研究成果の有効活用を積極的に図る。	3	3	講師派遣等の相談件数は記述されているが、研究成果の有効活用がどのように図られたのかは記述されておらず判断できない。開学初年度であることを考慮し評価を3とするが、今後、研究成果が地域へ積極的に有効活用されることを期待する。	
48	地域からの相談窓口を開設する(北近畿地域連携センター)。	3	3		
49	学内施設を改修し、「北近畿地域連携センター」及び「市民学習・キャリア支援センター」を開設し、北近畿地域の企業や各種団体との協働の場を設ける。	3	3		
50	様々な機関や団体が有する知的資源、人的資源等の活用に向けた検討を行う。	3	3		
51	北近畿地域の知の拠点として、広く住民を対象に大学の知的資源を還元し、また、北近畿地域の自治体との積極的な連携協力体制を構築することを目的として、京都府北部5市2町において、「福知山公立大学開学記念連続講演会」を開催する。(再掲)	4	4		
52	福知山市内において、「まちかどキャンパス」を試行する。	2	2		
53	北近畿地域の行政機関や企業等の各種団体と連携した地域経済や政策的課題の研究、並びに地域の課題解決への取り組みを推進する。	3	3		
54	地域と連携して実践教育に取り組む。	3	3		
55	北近畿地域を中心にインターンシップ等の受入先の拡充・開拓を図る。	3	3		
56	地元企業等の学内説明会を開催する。	4	3	年度計画どおり地元企業等合同就職説明会を1回開催したのみでは3を超える評価には無理があるため、評価3が相当と判断する。	
評定平均値		3.2	3.1		
評価5		0	0		
評価4		3	2		
評価3		8	9		
評価2		1	1		
評価1		0	0		
第5 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置					
57	理事長(学長)の迅速な意思決定を補佐するため、理事、学部長、学科長等で構成する運営会議を設置するとともに、学内組織である教授会、各種委員会、各種センターの機能・役割を明確にする。 また、全学協議会の開催を検討する。	3	3		
58	事務局に企画担当者を置き、先を見据えた取り組みを行う。	3	3		

番号	年度計画	法人 自己評価	評価委員会委員評価		備考
			評価結果	評価のポイント、委員会確認事項 (評価できる項目、課題となる項目)	
59	法人経営・大学運営の重要な課題について、的確かつ機動的にプロジェクトチームやタスクフォースを立ち上げて対応する。	3	3		
60	福知山市議会、公立大学法人福知山公立大学評価委員会、高校等と意見交換を行う。また、北近畿地域連携センターを窓口とした産官学が連携する会議を設置する。	3	3		
61	理事会、経営審議会、教育研究審議会において、外部理事、外部委員、監事の意見等を法人経営、大学運営に反映する。	3	3	理事会、経営審議会、教育研究審議会、アドバイザー・コミッティの意見を法人経営、大学運営に活かすことが、どのように経営改善に繋がるのか判断することが難しい。 開学初年度であることを考慮し評価を3とするが、経営改善の具体化に努められたい。	
62	ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会を定期的開催する(月2回程度)。(再掲)	3	3		
63	ファカルティ・ディベロップメント(FD)に関する研修会、勉強会を実施する。(再掲)	3	3		
64	授業アンケートを学期ごとに実施し、授業内容・方法等の改善及び向上に活用する。(再掲)	3	3	授業の内容や方法に関する受講者のアンケートを活かすために、公表したのは有効である。	
65	教職員による授業参観を試行する。(再掲)	3	3	評価の高い授業を選び授業参観を行ったのは有効である。	
66	スタッフ・ディベロップメント(SD)委員会を開催し、教職員の資質向上の取り組みを積極的に行う。	3	3		
67	教職員のスタッフ・ディベロップメント(SD)に関する研修会、勉強会を計画的に行う。	3	3		
68	教職員人事評価制度の導入を検討する。	3	3		
69	教育・研究や地域貢献の実績やイベント情報をメディアに情報提供するとともにホームページで公開する。	3	3	数値目標があっても良いのではないかと。	
70	大学の活動にかかる各種アンケートを実施し、分析結果を以降の活動に反映する。	3	3		
71	理事会、経営審議会、教育研究審議会における外部理事、外部委員、監事の意見等を法人経営、大学運営に反映する。(再掲)	3	3		
72	市民向け報告会を検討する。	3	3		
73	ステークホルダーからの情報収集、整理、共有を図る。	3	3		
74	教職員人事評価制度の導入を検討する。(再掲)	3	3		
75	執行状況を定期的に把握し、予算執行に反映させる。	3	3		
76	適切な発注方法を検討し、実施する。	2	2	学内活動に影響が生じないように、予算計画作成時等において、実施に係る検証を十分にお願したい。	
77	経費支出及び研究費支出のガイドラインを作成し、周知を図る。	3	3		
78	自己点検・評価委員会を設置する。また、運営会議を週1回程度開催し、外部状況、内部状況、課題等を把握する。	3	3	情報の共有化の面からも定期的、また積極的に会議等を行っていただきたい。	
79	次年度の定員増による学生数の増加等を想定し、教職員の定員、配置を検討する。	3	3		
80	雇用形態、勤務形態、給料形態等、多様で柔軟な人事制度を検討する。	3	3		
評定平均値		3.0	3.0		
評価5		0	0		
評価4		0	0		
評価3		23	23		
評価2		1	1		
評価1		0	0		

番号	年度計画	法人 自己評価	評価委員会委員評価		備考
			評価結果	評価のポイント、委員会確認事項 (評価できる項目、課題となる項目)	
第6 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置					
81	定員増に取り組む。	3	3		
82	大学運営に必要な環境が整備されているかを確認する。	3	3		
83	執行状況を定期的に把握し、予算執行に反映させる。(再掲)	3	3		
84	適切な発注方法を検討し、実施する。(再掲)	2	2	学内活動に影響が生じないように、予算計画作成時等において、実施に係る検証を十分にお願したい。	
85	経費支出及び研究費支出のガイドラインを作成し、周知を図る。(再掲)	3	3		
86	教職員人事評価制度の導入を検討する。(再掲)	3	3		
87	福知山市及びその隣接地域の全高校並びに前年度志願者が5名以上の北近畿地域の高校に対しては年内に3回訪問し、志願者増に努める。	4	3	全国から多数の志願者を集めることができた反面、地元である北近畿地域からの志願者が少ない。大学が真に「地域のための大学」となるためには、さらなる取り組みが必要である。高校訪問だけでなく、様々な取り組みを通じて高校教員等との信頼関係の構築に努め、北近畿地域からの志願者、入学者の獲得に向けて取り組まれない。 したがって、3を超える評価には無理があり、評価3が相当と判断する。	
88	賑わいのあるオープンキャンパスを検討し、実施する。	3	3	オープンキャンパス参加者に定期的に本学の情報を発信するなど、アフターフォローに注力いただきたい。 また、オープンキャンパス参加者の情報等を入学志願者確保に向けて有効に活用いただきたい。	
89	志願者データを分析し、次年度の学生募集活動に反映する。	3	3		
90	各種受験媒体、ホームページを効果的に活用した広報活動を行う。	4	4		
91	高校と連携し、出前講義(10回程度)を実施する。	4	4	地域への効果的な広報にもなると評価する。今後も継続的に実施することにより、入学志願者の確保に繋げていただきたい。	
92	公立大学として適正な授業料等学生納付金額を設定する。	3	3		
93	適切な料金等を設定し、外部による施設利用を図る。	3	3	広報誌等を活用した情報発信により、施設利用の促進を図っていただきたい。	
94	国、地方公共団体等の外部資金の獲得を推進するとともに、企業他各種団体からの外部資金獲得に向けての制度設計を検討する。	3	3		
95	科学研究費補助金の獲得に取り組む。	3	3		
96	定員増に取り組む、定員を充足させる。	3	3		
97	執行状況を定期的に把握し、予算執行に反映させる。(再掲)	3	3		
98	適切な発注方法を検討し、実施する。(再掲)	2	2	学内活動に影響が生じないように、予算計画作成時等において、実施に係る検証を十分にお願したい。	
99	経費支出及び研究費支出のガイドラインを作成し、周知を図る。(再掲)	3	3		
100	執行状況を把握するとともに発注実績を共有し、コスト低減を図る。	3	3		
評定平均値		3.1	3.0		
評価5		0	0		
評価4		3	2		
評価3		15	16		
評価2		2	2		
評価1		0	0		
第7 自己点検・評価及び情報公開に関する目標を達成するための措置					
101	年度計画により計画的に業務運営を行う。	3	3		
102	平成28年度終了後、年度計画に定めた項目ごとにその実績を明らかにし、公立大学法人福知山公立大学評価委員会の評価を受ける。	3	3		
103	平成29年度の認証評価機関による評価(第三者評価)に向け、自己点検・評価の体制を整備する。	3	3		

番号	年度計画	法人 自己評価	評価委員会委員評価		備考
			評価結果	評価のポイント、委員会確認事項 (評価できる項目、課題となる項目)	
104	自己点検・評価を実施し、その結果を教育研究水準の向上や活性化に繋げる。(再掲)	3	3	評価は「3」とするが、大学認証評価に向けて、自己点検・評価結果が教育研究水準の向上や活性化にどのように繋がったかを整理する必要がある。	
105	本学の実情に即した内部質保証システムを構築し、PDCAサイクルを円滑に実施する。(再掲)	3	3		
106	中期計画、年度計画については、設立団体の長である福知山市長の認可を受けた後、財務諸表(期首貸借対照表)、自己点検による評価結果については作成後、遅滞なくホームページ等を通じて公表する。	3	3		
107	法令で公表義務がある事項に限らず、大学の活動状況をホームページ等を通じて積極的に公表する。	3	3	積極的な広報が実施されており、活動状況が公表されている。	
108	大学の基本理念、特色等の周知を図る。	3	3		
109	広報委員会と入試委員会は、内容に応じ適宜共同で活動を行う。	3	3		
110	調査やデータ分析等を活用し、目的及び効果を考慮し、計画的に効果的な広報活動を行うよう努める。	3	3		
111	マスメディア等との連絡体制を確立するとともに、情報提供及びホームページ等を通じた時機を逸しない広報活動に努める。	3	3		
評定平均値		3.0	3.0		
評価5		0	0		
評価4		0	0		
評価3		11	11		
評価2		0	0		
評価1		0	0		
第8 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置					
112	内部監査体制を構築する。	3	3		
113	ハラスメント防止に関わる啓発と研修を実施する。	3	3		
114	研究に関する規程(研究費不正使用防止、研究不正行為防止、研究倫理)を整備し、研修会を実施する。	3	3		
115	公益通報制度を周知する。	3	3		
116	設置者変更に伴い、資産の把握を適切に行い、承継資産の点検・評価を行う。	3	3		
117	資産台帳をもとに効率的かつ確実な運用・管理を行う。	3	3		
118	施設設備の現状を把握し、老朽化した施設設備の整備を検討する。	3	3		
119	危機管理・人権・倫理委員会を中心に、危機管理マニュアルを作成し、危機対応体制を整備する。	3	3		
120	健康診断、ストレスチェック、職場巡回(月4回程度)を実施し、必要に応じて改善する。	4	4		
121	学内情報環境の課題を把握し、体制を整備して解決に取り組む。	3	3		
122	設備の現状を把握し、対策を検討する。	3	3		
評定平均値		3.1	3.1		
評価5		0	0		
評価4		1	1		
評価3		10	10		
評価2		0	0		
評価1		0	0		
第14 福知山市の規則で定める業務運営に関する事項					
123	施設及び設備の現状を把握し、老朽化したものについては整備を検討する。	3	3		

番号	年度計画	法人 自己評価	評価委員会委員評価		備考
			評価結果	評価のポイント、委員会確認事項 (評価できる項目、課題となる項目)	
124	北近畿地域連携センター及び市民学 習・キャリア支援センターを設置する ために、2号館の改修を行う。	3	3		
125	施設及び設備の適切な維持管理に努め る。	3	3		
126	職員の能力と実績を総合的に評価する 制度の導入を検討する。	3	3		
評定平均値		3.0	3.0		
評価5		0	0		
評価4		0	0		
評価3		4	4		
評価2		0	0		
評価1		0	0		

 法人自己評価と評価結果が異なる項目